

就職白書2015 ーインターンシップ編ー

株式会社リクルートキャリア（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：柳川 昌紀）のよりよい就職・採用の在り方を追究するための研究機関・就職みらい研究所（所長：岡崎 仁美）は、企業および学生のインターンシップの実施や参加の状況を明らかにするため、全国の新卒採用を実施している企業と、就職活動を行った2015年卒の大学4年生・大学院2年生を対象に、調査を実施いたしました。

このたび調査結果がまとまりましたので、一部を抜粋してご報告申し上げます。

【インターンシップの実施状況】〈企業〉

- 2014年度にインターンシップを実施した（予定含む）企業は55.5%と、2013年度の46.0%より9.5ポイント増加した。また、2015年度に実施予定の企業は58.3%と、2014年度よりも2.8ポイント増加する見通しである。
- 実施目的について、「仕事を通じて、学生に自社を含め、業界・仕事の理解を促進させる」が88.8%と最も多く、次いで「学生に就業体験の機会を提供することで、社会貢献する」（64.7%）である。
- 実施の際の苦労や懸念点として、「プログラムの企画・設計」（78.7%）、「社内協力者の巻き込み」（72.7%）を挙げる企業が特に多い。
- インターンシップの受け入れ部門を見ると、「人事部門」（54.7%）が最も多く、次いで「営業・販売部門」（29.5%）、「研究・開発部門」（27.1%）である。
- プログラム内容は、「通常業務でなく別の課題やプロジェクト」（51.1%）が最も多く、次いで「職場や工場の見学」（41.8%）、「社員の補助的な業務の一部」（40.4%）である。
- インターンシップ選考と採用選考基準との相違を見ると、「全く同じ」は22.5%である。また、選考基準が異なる企業のうち、94.7%は「採用の方が厳しい」としている。

【2015年卒学生のインターンシップへの参加状況】〈学生〉

- インターンシップ参加の学生は26.9%と、2014年卒よりも3.0ポイント増加した。
- 参加目的は、「仕事理解」（67.3%）、「業種理解」（53.3%）、「企業・職場の雰囲気を知る」（32.2%）の順であった。
- インターンシップ先を選ぶ際に重視したのは、「業種」（50.1%）、「インターン内容」（44.1%）、「職種」（32.7%）の順であった。
- インターンシップに参加してよかったと思う点は、「仕事内容を具体的に知ることができた」が68.0%と最も多く、次いで「業種について具体的に知ることができた」（56.9%）、「企業・職場の雰囲気を知ることができた」（37.4%）の順であった。
- インターンシップに参加しなかった学生の理由は、「インターンシップの内容に魅力を感じなかった」（40.0%）、「実施時期や時間が、自分の予定と合わなかった」（28.0%）、「採用選考上有利になると思わなかった」（22.7%）の順であった。
- インターンシップ参加学生の14.8%が、インターンシップ参加企業に入社予定。参加企業ではないが、同業種企業への入社予定が25.2%と、合わせて4割がインターンシップ参加業種へ入社予定である。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社リクルートキャリア コーポレート戦略統括部 社外広報グループ
Mail : kouho@waku-2.com

【目次】

調査概要	2
I. インターンシップの実施状況<企業>	3~7
1) 実施状況	3
2) 実施期間	3
3) 前年と比較した際の変更および変更予定状況	4
4) 実施目的と成果	5
5) 実施における苦労や懸念点	5
6) 実施対象	6
7) 受け入れ部門/プログラム内容/指導担当者	6
8) 参加者への評価等のフィードバック状況	7
9) インターンシップ選考と採用選考基準の相違/選考方法	7
II. 2015年卒の学生のインターンシップへの参加状況<学生>	8~10
1) 参加状況/参加社数/参加期間	8
2) 参加目的/参加しなかった理由/インターンシップ先を選ぶ際に重視した点/参加してよかったと思う点	9
3) インターンシップでの報酬等の支給状況	10
4) インターンシップ参加企業への入社予定状況	10

【調査概要】

今回調査：就職白書2015

【企業調査】

2015年卒（大学生・大学院生）の採用活動振り返り調査

調査目的：新卒採用に関する企業の活動実態を把握する

調査方法：郵送法

調査対象：全国の新卒採用を実施している従業員規模5人以上の企業3,989社

調査期間：2014年12月13日～2015年1月29日

回収社数：1,184社（回収率29.7%）

【学生調査】

2015年卒（大学生・大学院生）の就職活動振り返り調査

調査目的：就職に関する学生の活動実態を把握する

調査方法：WEBアンケート

—調査協力：株式会社インテージ

調査対象：インテージ社のモニターにスクリーニング調査を行い、民間企業を対象に就職活動を行った全国の大学4年生・大学院2年生の男女3,175人を対象

調査期間：2015年1月5日～2015年1月14日

集計対象：2,539人（回収率80.0%）

前回調査：就職白書2014

【企業調査】

2014年卒（大学生・大学院生）の採用活動振り返り調査

調査目的：新卒採用に関する企業の活動実態を把握する

調査方法：郵送法

調査対象：全国の新卒採用を実施している従業員規模5人以上の企業4,303社

調査期間：2013年12月11日～2014年1月31日

回収社数：1,332社（回収率31.0%）

【学生調査】

2014年卒（大学生・大学院生）の就職活動振り返り調査

調査目的：就職に関する学生の活動実態を把握する

調査方法：WEBアンケート

—調査協力：株式会社クロス・マーケティング

調査対象：クロス・マーケティング社のモニターにスクリーニング調査を行い、民間企業を対象に就職活動を行った全国の大学4年生・大学院2年生の男女8,672人を対象

調査期間：2014年1月6日～2014年1月19日

集計対象：1,610人（回収率18.6%）

※大学生については、性別、専攻、所属大学の設置主体の構成比が実際の母集団に近づくよう、文部科学省「学校基本調査」の数値を参照し、ウェイトバック集計を行った。大学生と大学院生を合わせた学生全体については、大学生と大学院生の構成比に関して、同様のウェイトバック集計を行ったため、大学生と大学院生の合計値が、学生全体の値と一致しない。

《調査結果を見る際の注意点》

■ %を表示する際に小数点第2位で四捨五入しているため、%の合計値や差の数値と計算値が一致しない場合がある

■ 図表の一部で、今回調査と前回調査のポイント差をカッコ内に記載した

例：14.2% (-6.7) の場合、前回調査より6.7ポイント減少

《地域区分の内訳（P3、P8、P10で使用）》

関東＝茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

中部＝新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県

近畿＝三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

その他地域・計＝「関東」「中部」「近畿」以外

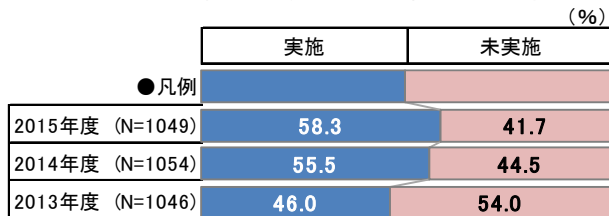
《その他》

■ 年度は、4月から翌年3月までとしている

1) 実施状況

新卒採用を実施している企業のうち、2014年度にインターンシップを実施した（予定含む）企業は55.5%と、2013年度の46.0%より9.5ポイント増加した。また、2015年度に実施予定の企業は58.3%と、2014年度よりも2.8ポイント増加する見通しである。

■ インターンシップの実施(予定)状況(全体/単一回答)



●凡例
 ※今回調査の、2013年度および2014年度、2015年度に関する回答結果を集計
 ※2014年度および2015年度は、調査時点以降の予定を含めた回答

□ 従業員規模および業種、地域別インターンシップの実施(予定)状況

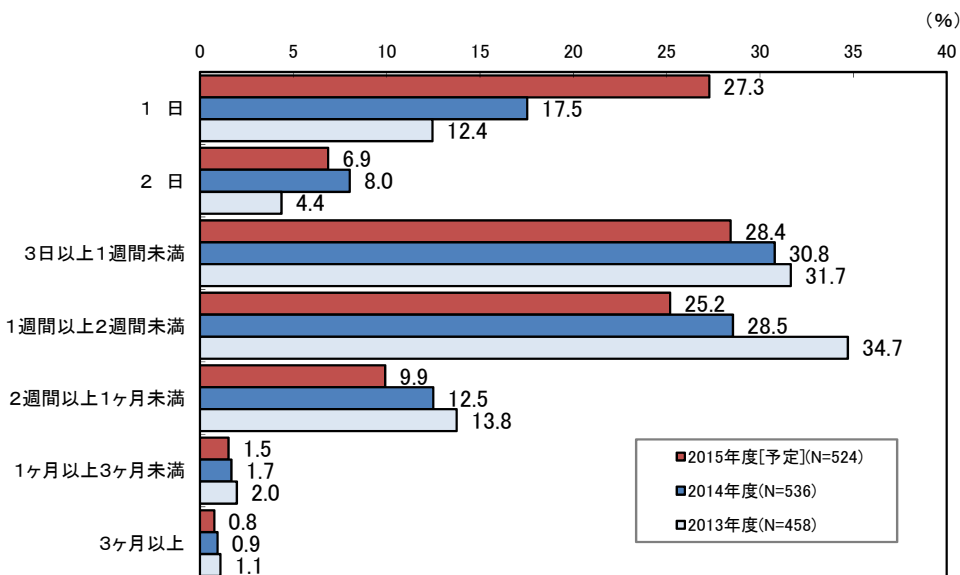
	2013年度		2014年度		2015年度		
	N	実施率 (%)	N	実施率 (%)	N	実施率 (%)	
全体	1046	46.0	1054	55.5	1049	58.3	
従業員規模	300人未満	196	33.7	199	36.2	199	37.7
	300~999人	371	40.7	371	52.0	373	55.0
	1000~4999人	342	51.5	345	61.4	343	65.6
	5000人以上	118	67.8	119	82.4	114	82.5
業種	建設業	70	50.0	70	65.7	70	64.3
	製造業	381	44.6	384	52.6	379	56.2
	流通業	198	42.9	199	51.8	203	53.2
	金融業	131	49.6	131	60.3	126	63.5
	サービス・情報業	249	47.8	252	57.9	253	60.9
地域	関東	476	43.7	479	54.3	473	55.6
	中部	180	55.0	181	62.4	182	63.2
	近畿	172	35.5	174	47.7	175	53.1
	その他地域・計	199	52.8	200	59.5	199	64.3

2) 実施期間

【2013~2015年度いずれかの年度で実施】

2013~2015年度いずれかに、インターンシップを実施した企業に、インターンシップの実施期間（主なもの）を尋ねると、2013年度では「1週間以上2週間未満」が最も多く、2014年度では「3日以上1週間未満」、2015年度の予定では、2014年度と同様に「3日以上1週間未満」である。

■ インターンシップの実施期間(各年度のインターンシップ実施企業[実施予定を含む] / 各年度単一回答)



※データは無回答サンプルを除いて集計
 ※従業員規模、業種、地域の不明・無回答企業があるため、規模別、業種別、地域別の計と全体は一致しない

3) 前年と比較した際の変更および変更予定状況

【2013～2015年度いずれかの年度で実施】

2013～2015年度にインターンシップを実施または実施予定の企業において、2013年度と比べた2014年度の変更状況の、「増やした/増やす予定」または「変更した/変更予定」「上げた/広げる予定」について見る。

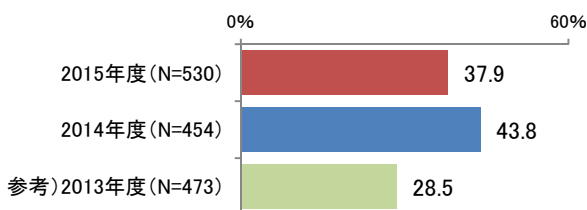
まず、2014年度について見ると、2013年度と比較して、特に変更が見られたのは「受け入れ人数」で、43.8%が増やしたと回答。また、「回数」(37.7%)や「内容」(38.8%)についても、4割近くが増やした、変更したとの回答だった。

次に2015年度について見ると、4割以上が「時期」を変更予定と回答。「受け入れ人数」(37.9%)や「回数」(35.1%)は、2014年度と同様に3割強が増やすと回答し、「内容」(33.4%)も3割以上が変更予定との回答だった。

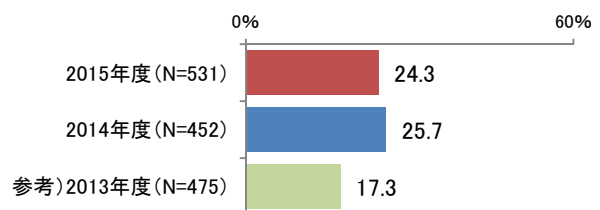
■2013年度と比べた2014年度の変更状況、および、2014年度と比べた2015年度の変更予定状況のうち、「増やした/増やす予定」または「上げた/広げる予定」「変更した/変更予定」の数値(インターンシップ実施企業[実施予定含む]/それぞれ単一回答)

※「参考)2013年度」は前回調査。2012年度と比べた2013年度の変更状況

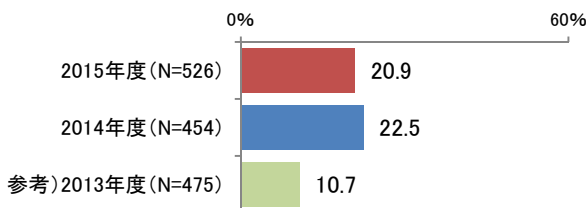
【受け入れ人数】(増やした/増やす予定)



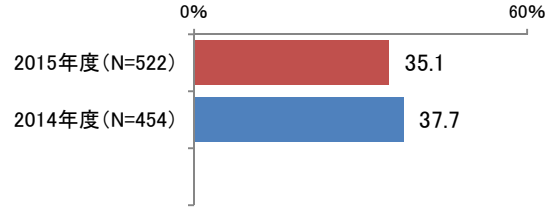
【対象者】(上げた/広げる予定)



【期間】(増やした/増やす予定)

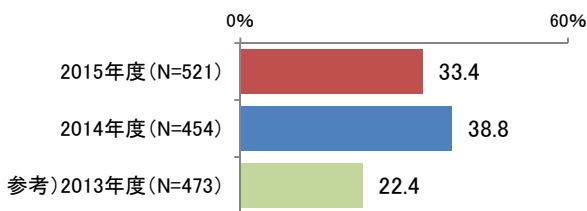


【回数】(増やした/増やす予定)

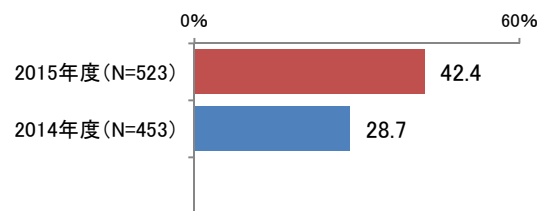


※2013年度(前回調査)はなし

【内容】(変更した/変更する予定)



【時期】(変更した/変更する予定)



※2013年度(前回調査)はなし

※データは無回答サンプルを除いて集計

4) 実施目的と成果

【2013～2015年度いずれかの年度で実施】

インターンシップを実施（予定も含む）した企業の実施目的は、「仕事を通じて、学生に自社を含め、業界・仕事の理解を促進させる」（88.8%）が最も多く、次いで「学生に就業体験の機会を提供することで、社会貢献する」（64.7%）であった。目的に対しての成果を見ると、「仕事を通じて、学生に自社を含め、業界・仕事の理解を促進させる」（84.8%）に次いで「学生に就業体験の機会を提供することで、社会貢献する」（60.0%）であり、目的と同順であった。目的と成果の差（ギャップ）を見ると、「採用を意識し、学生のスキルを見極める」の差は11.0ポイントで、最も差が見られた。

■ インターンシップの実施目的とその成果（インターンシップ実施企業[実施予定を含む] / 複数回答）

(%)

N=今回/前回	①目的		②成果		①-② 差
	645/569	552/522			
仕事を通じて、学生に自社を含め、業界・仕事の理解を促進させる	88.8 (10.6)	84.8 (10.3)	4.1		
学生に就業体験の機会を提供することで、社会貢献する	64.7 (-10.2)	60.0 (-9.8)	4.7		
採用を意識し、学生のスキルを見極める	41.1 (10.0)	30.1 (5.7)	11.0		
将来の顧客となり得る学生に対して、自社に対する理解・イメージアップを促進させる	33.0 (2.6)	27.4 (2.1)	5.7		
従来の採用とは異なるタイプの学生を見出す	10.7 (3.5)	6.2 (1.0)	4.5		
定型業務・プロジェクト等を明示し、学生のスキルを活用して社員に対する活性化を促す	9.8 (-3.2)	8.3 (-2.8)	1.4		
採用に直結したものとして実施	7.1	3.4	3.7		
その他	2.8 (-1.1)	2.5 (-0.9)	0.3		
特に目的を設定していない	0.3 (-0.8)				

※「採用に直結したものとして実施」は、今回調査により追加

5) 実施における苦勞や懸念点

【2013～2015年度いずれかの年度で実施】

インターンシップを実施（予定も含む）した際の苦勞や懸念点を見ると、「プログラムの企画・設計」（78.7%）、「社内協力者の巻き込み」（72.7%）、「参加者の募集・選考」（43.1%）、「プログラムの実施」（41.6%）が多かった。そのうち、最も苦勞や懸念点なものは、「社内協力者の巻き込み」（39.1%）であった。

■ インターンシップを実施する際の苦勞や懸念点（インターンシップ実施企業[実施予定を含む] / 複数・単一回答）

(%)

N=今回/前回 634/566	あてはまるもの すべて	最も
プログラムの企画・設計	78.7 (8.2)	34.8 (3.6)
社内協力者の巻き込み	72.7 (-2.4)	39.1 (-3.1)
参加者の募集・選考	43.1 (14.1)	10.1 (3.0)
プログラムの実施	41.6 (5.6)	4.4 (-2.1)
運営上の事前手配	39.7 (1.2)	3.7 (-0.3)
プログラム終了後のフォロー	31.4 (10.0)	5.5 (1.4)
事務手続き	25.1 (0.2)	2.0 (-2.7)
その他	0.5 (-0.2)	0.4 (0.2)
特になし	5.0 (-1.7)	

※カッコ内の数値は前回調査との差
※データは無回答サンプルを除いて集計

6) 実施対象

【2014年度実施】

2014年度のインターンシップ実施対象は、「大学3年生」が93.0%と突出して多く、前年よりも3.9ポイント増加した。次いで、大学院1年生の54.5%で、前年+19.6ポイントと、最も増加している。

■インターンシップの実施対象(各年度のインターンシップ実施企業[実施予定を含む] / 複数回答)

	N=今回/前回	569/542	(%)
大学1年生		29.9	(14.4)
大学2年生		36.6	(9.1)
大学3年生		93.0	(3.9)
大学4年生		31.5	(14.5)
大学院1年生		54.5	(19.6)
大学院2年生以上		26.2	(14.8)
日本の大学(院)在学中の外国人留学生		24.4	(11.7)
海外の大学(院)在学中の外国人学生		12.3	(7.5)
海外の大学(院)在学中の日本人留学生		13.0	(8.2)
既卒者		7.0	(4.6)
その他		1.4	(0.3)

※2014年度は、今回調査における2014年度実施企業
※()は、2013年度との差で、前回調査における2013年度実施企業

7) 受け入れ部門/プログラム内容/指導担当者

【2014年度実施】

インターンシップの受け入れ部門を見ると、「人事部門」(54.7%)が最も多く、次いで「営業・販売部門」(29.5%)、「研究・開発部門」(27.1%)である。

インターンシップのプログラム内容を見ると、「通常業務でなく別の課題やプロジェクト」(51.1%)が最も多く、「職場や工場の見学」(41.8%)、「社員の補助的な業務の一部」(40.4%)と続く。

インターンシップの受け入れに対して、直接指導する担当者を見ると、「一般社員クラス」(72.2%)が最も多く、「係長・主任・リーダークラス」(63.2%)と続く。

■インターンシップ受け入れ部門(インターンシップ実施企業[実施予定を含む] / 複数回答)

	N	人事部門	人事部門以外のスタッフ系部門	営業・販売部門	製造部門	研究・開発部門	その他
全体	569	54.7	14.1	29.5	18.6	27.1	12.0

■インターンシッププログラム内容(インターンシップ実施企業[実施予定を含む] / 複数回答)

	N	社員に同席あるいは同行	社員の基幹的な業務の一部	社員の補助的な業務の一部	通常業務でなく別の課題やプロジェクト	職場や工場の見学	アルバイトやパートタイマーが行う業務の一部	その他
全体	569	36.9	22.8	40.4	51.1	41.8	9.0	3.3

■インターンシップ受け入れ学生を直接指導する担当者(インターンシップ実施企業[実施予定を含む] / 複数回答)

	N	一般社員クラス	係長・主任・リーダークラス	課長・課長と同等クラス	部長・部長と同等クラス	役員・役員と同等クラス以上	その他
全体	571	72.2	63.2	43.8	16.1	4.2	1.6

※カッコ内の数値は前回調査との差
※データは無回答サンプルを除いて集計

8) 参加者への評価等のフィードバック状況

【2014年度実施】

インターンシップ参加者に対しての、評価等のフィードバック状況は、「学生にのみ直接している」(30.0%)、「学生および大学の両方にしていない」(30.3%)がほぼ同程度である。「特にしていない」のは約2割である。

■ インターンシップ参加者への評価等のフィードバック状況(インターンシップ実施企業[実施予定を含む] / 単一回答)

N 今回 前回	(%)			
	学生にのみ直接している	学生にはしていないが大学へしている	学生および大学の両方にしていない	特にしていない
554	30.0	18.8	30.3	20.9
538	(11.4)	(-9.8)	(5.8)	(-7.4)

9) インターンシップ選考と採用選考基準の相違 / 選考方法

【2014年度実施】

インターンシップ参加者の選考基準と採用選考の基準との相違を見ると、「全く同じ」であるのは22.5%で、「多少異なる」37.5%と「全く異なる」40.0%を合わせると、8割近くが異なっている状況である。また、選考基準が異なっている場合、どちらが厳しいかを聞いたところ、「採用の方が厳しい」が76.4%で、「どちらかというとな採用の方が厳しい」を合わせると94.7%であり、採用選考の基準の方が厳しい状況となっている。

■ インターンシップ参加者の選定基準と採用選考基準との相違(インターンシップ実施企業[実施予定を含む] / 単一回答)

N	(%)		
	全く同じ	多少異なる	全く異なる
538	22.5	37.5	40.0

■ インターンシップ参加者の選定基準と採用選考基準との比較(選考基準が異なる企業 / 単一回答)

N	(%)					(%)	
	インターンシップの方が厳しい	どちらかというとな採用の方が厳しい	ほぼ同じ基準	どちらかというとな採用の方が厳しい	採用の方が厳しい	インターンシップ・計	採用・計
399	1.0	1.8	2.5	18.3	76.4	2.8	94.7

インターンシップ参加者の選考方法は、「書類」選考が最も多く56.6%である。次いで、「先着順や抽選」(25.8%)が続く。

■ インターンシップ参加者の選考方法(インターンシップ実施企業[実施予定を含む] / 複数回答)

	N	(%)					
		書類	適性試験	筆記試験	面接	先着順や抽選	その他
全体	562	56.6	5.2	2.5	21.7	25.8	22.4

□「その他」の主な回答

<学校関連>

- 学校や教授からの推薦
- 学校からの依頼・紹介
- 学校内での選考

<他>

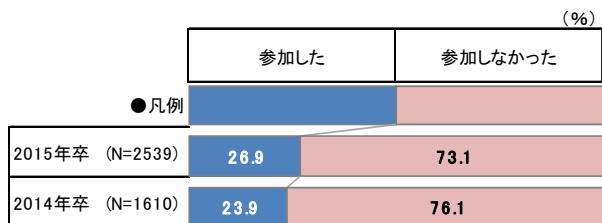
- グループディスカッション
- グループワーク
- 全員受け入れ
- 選考なし

※カッコ内の数値は前回調査との差
※データは無回答サンプルを除いて集計

1) 参加状況/参加社数/参加期間

2015年卒学生のうち、インターンシップ参加者は26.9%と、2014年卒よりも3.0ポイント増加した。インターンシップ参加社数は、1社が最も多く、平均は1.63社であった。インターンシップ参加期間は、「3日以上1週間未満」(35.0%)が最も多く、次いで「1週間以上2週間未満」(27.9%)であった。

■ インターンシップへの参加状況(学生全体/単一回答)



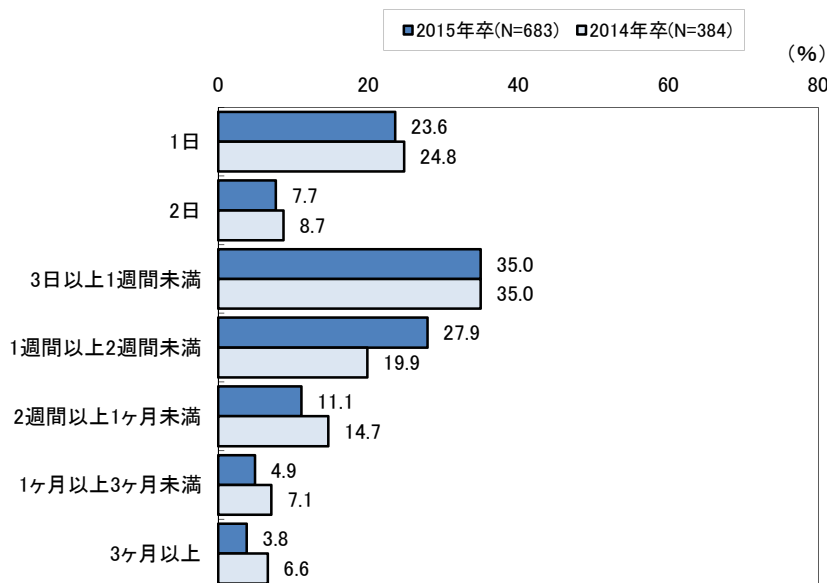
□ 学校種および文理、地域別のインターンシップへの参加状況

学校種	N=今回/前回	参加状況 (%)		
		参加した	参加しなかった	
大学生	文系	1458/843	28.9 (6.1)	71.1 (-6.1)
	理系	727/411	23.2 (-0.3)	76.8 (0.3)
	関東	986/588	29.6 (5.7)	70.4 (-5.7)
	中部	284/139	25.2 (1.3)	74.8 (-1.3)
	近畿	448/274	26.2 (6.2)	73.8 (-6.2)
	その他地域・計	466/254	23.2 (-0.4)	76.8 (0.4)
大学院生	文系	56/51	25.0 (5.4)	75.0 (-5.4)
	理系	298/305	26.2 (-6.3)	73.8 (6.3)
	関東	156/120	30.8 (1.6)	69.2 (-1.6)
	中部	44/53	11.4 (-24.4)	88.6 (24.4)
	近畿	78/77	29.5 (-3.0)	70.5 (3.0)
	その他地域・計	76/106	21.1 (-7.2)	78.9 (7.2)

■ インターンシップの参加社数の内訳(インターンシップ参加者/単一回答)

全体	年次	N	参加社数 (%)						平均社数
			1社	2社	3社	4社	5社	6社以上	
全体	2015年卒	683	67.8	18.6	8.4	1.4	2.2	1.5	1.63社
	2014年卒	384	69.2	15.6	9.7	1.2	2.1	2.0	1.64社

■ インターンシップの参加期間 (インターンシップ参加者/複数回答)



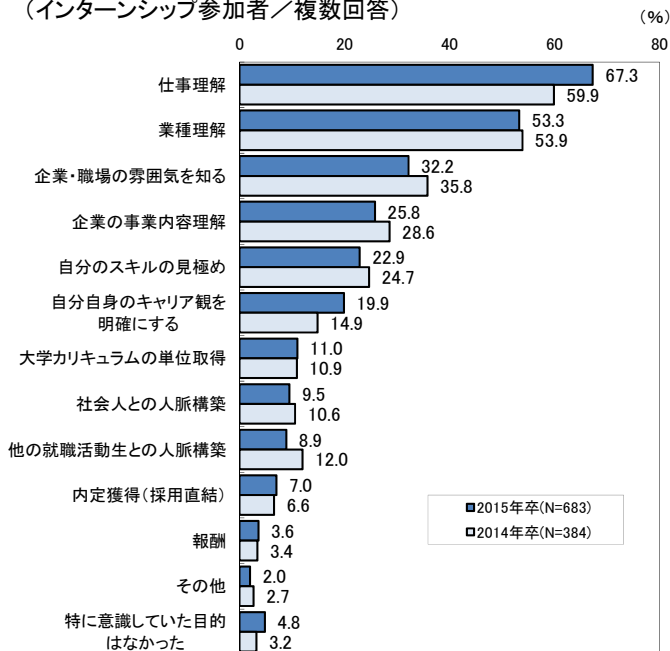
※カッコ内の数値は前回調査との差

2) 参加目的/参加しなかった理由/インターンシップ先を選ぶ際に重視したこと/参加してよかったと思う点

インターンシップ参加目的を見ると、「仕事理解」(67.3%)、「業種理解」(53.3%)、「企業・職場の雰囲気を知る」(32.2%)の順であった。
 インターンシップに参加しなかった学生の理由を見ると、「インターンシップの内容に魅力を感じなかった」(40.0%)、「実施時期や時間が、自分の予定と合わなかった」(28.0%)、「採用選考上有利になると思わなかった」(22.7%)の順であった。

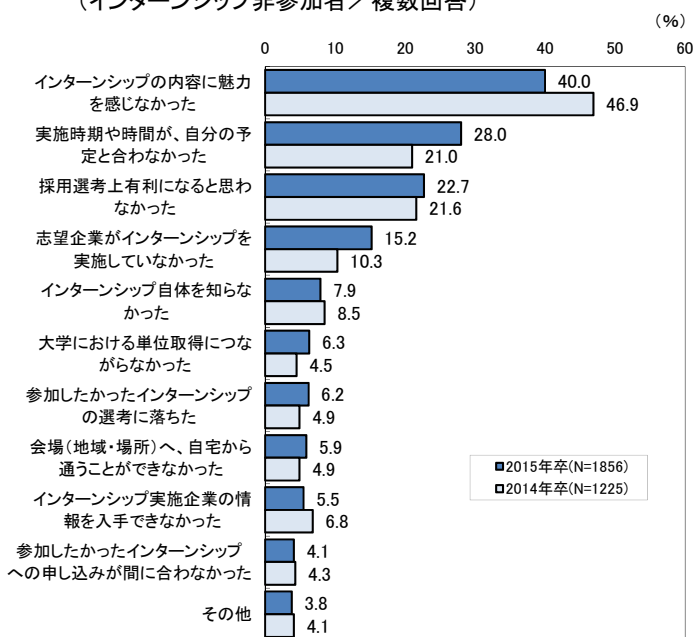
■ インターンシップの参加目的

(インターンシップ参加者/複数回答)



■ インターンシップに参加しなかった理由

(インターンシップ非参加者/複数回答)

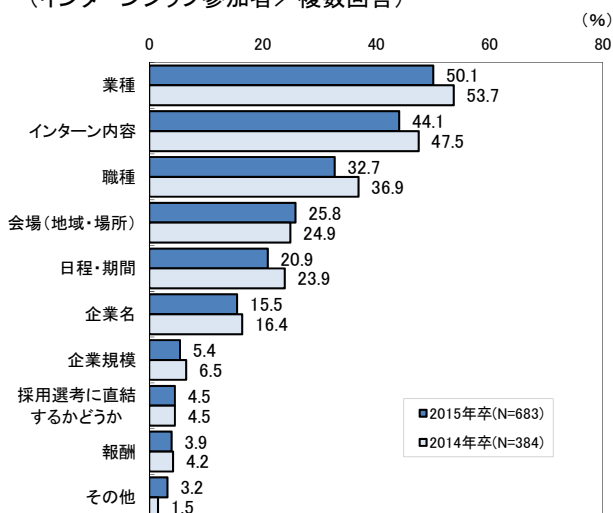


インターンシップ先を選ぶ際に重視したことを見ると、「業種」(50.1%)が最も多く、「インターン内容」(44.1%)、「職種」(32.7%)の順であった。

インターンシップに参加してよかったと思う点は、「仕事内容を具体的に知ることができた」(68.0%)が最も多く、「業種について具体的に知ることができた」(56.9%)、「企業・職場の雰囲気を知ることができた」(37.4%)の順であった。

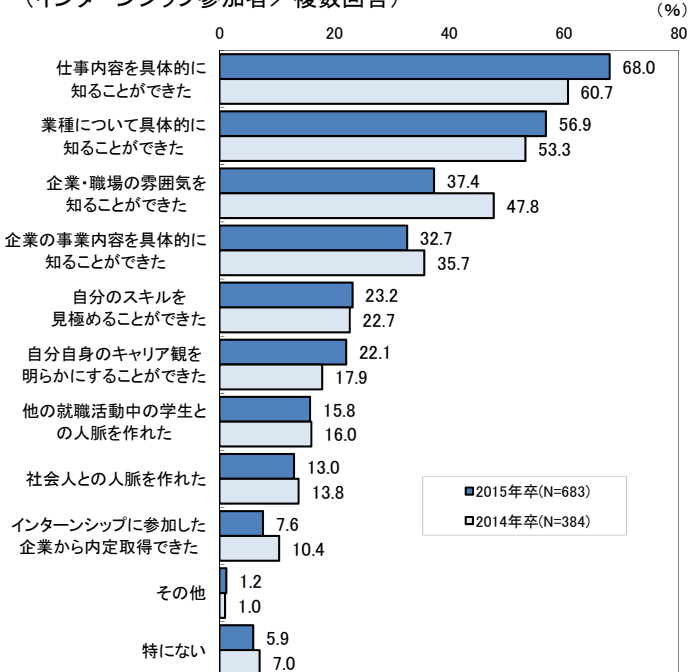
■ インターンシップ先を選ぶ際に重視したこと

(インターンシップ参加者/複数回答)



■ インターンシップに参加してよかったと思う点

(インターンシップ参加者/複数回答)



3) インターンシップでの報酬等の支給状況

参加したインターンシップでの、交通費などの支給状況を見ると、交通費は37.1%の学生が支給されているが、それ以外については、15%程度であった。

■ インターンシップでの報酬等の支給状況(インターンシップ参加者/それぞれ単一回答)

		(%)		
		はい	いいえ	わからない
● 凡例				
交通費	N=683	37.1	61.8	1.1
宿泊費または宿泊施設の無償提供	N=683	15.7	76.4	7.9
報酬(交通費、宿泊費を除く)	N=683	15.9	82.0	2.2

□ 地域別のインターンシップでの報酬等の支給状況

		(%)									
		交通費			宿泊費または宿泊施設の無償提供			報酬(交通費、宿泊費を除く)			
		はい	いいえ	わからない	はい	いいえ	わからない	はい	いいえ	わからない	
全体		683	37.1	61.8	1.1	15.7	76.4	7.9	15.9	82.0	2.2
地域	関東	340	44.3	54.1	1.6	16.9	72.6	10.4	19.3	78.6	2.1
	中部	78	22.4	76.9	0.7	11.3	84.1	4.6	7.2	92.8	—
	近畿	140	28.5	70.5	1.0	11.3	82.6	6.1	11.8	85.7	2.6
	その他地域・計	125	36.5	63.5	—	19.7	75.0	5.3	16.5	80.2	3.2

4) インターンシップ参加企業への入社予定状況

インターンシップ参加学生のうち、14.8%がインターンシップ参加企業に入社予定である。参加企業ではないが、同業種の企業に入社予定は25.2%で、これを合わせると、インターンシップ参加学生の4割が、インターンシップに参加した業種へ、入社予定となった。

■ インターンシップ参加企業への入社予定状況(インターンシップ参加者/単一回答)

		(%)			
		インターンシップ参加企業に入社する予定	インターンシップ参加企業ではないが、同業種の企業に入社する予定	まったく異なる業種の企業に入社する予定	その他
● 凡例					
2015年卒	N=596	14.8	25.2	59.2	0.8
2014年卒	N=335	16.2	25.5	58.2	0.2